

新春の令和を寿ぐ内発協賀詞交歓会 会員、親睦団体より400名が出席



会場入口で出席者を出迎える（左から）
今永会長、森谷副会長、山中副会長、福山専務理事

一般社団法人日本内燃力発電設備協会（内発協、今永隆会長）が主催して「令和二年新年賀詞交歓会」が1月10日、東京都千代田区のホテルグランドパレスのダイヤモンドルームで開催されました。

17時30分頃に開宴し、冒頭、今永隆会長が令和二年新年の年頭あいさつを行いました。引き続き、来賓あいさつとして、経済産業省商務情報政策局の田上博道氏、総務省・消防庁の塩谷壮史氏、国土交通省住宅局の村田英樹氏の三氏がそれぞれの立場から祝辞を述べました。

森谷浩一副会長（三菱重工エンジンシステム株式

12年 新年賀詞交歓 一般社団法人 日本内燃力発電設備協会



令和二年新年の年頭あいさつをする今永会長

（株）が乾杯あいさつを行い、森谷副会長の発声で出席者全員で乾杯を行いました。19時30分頃に山中秀之副会長（株式会社明電舎）が中締めあいさつを行い、山中副会長の音頭で全員で3本締めを行うとともに、手締めの掛け声で締めくくりました。

（あいさつ要旨10～15面に）

一般社団法人日本内燃力発電設備協会
会長

いまなが
今永

たかし
隆

皆様、あけましておめでとうございます。

本日は約400名近い方々にお越しいただいております。会員会社をはじめ、経済産業省、総務省・消防庁、国土交通省、各消防機関、関係団体の皆様にも多数おいでいただいております。誠にありがとうございます。

振り返ってみますと、一昨年、昨年は自然災害に



よる大規模被害が続きました。

一昨年は6月～7月に西日本大豪雨による大規模土砂災害、8月～9月に台風21号による記録的高潮と暴風雨による大規模被害、9月に北海道胆振東部地震による土砂崩れや全道での大規模停電が発生しました。

昨年は9月～10月に台風15号及び台風19号により千葉県では大規模かつ長期停電及び大規模水害が発生しました。10月に沖縄県では首里城が火災で焼失しました。

今から約90年前、寺田寅彦博士は「天災は忘れた頃にやってくる」と講演の中で述べたと言い伝えられています。

寺田先生は、自然災害がやってくる度に人々は驚いていますが、じつは過去の歴史をひもとけば、必ず同じ様な自然災害は起きていますと述べています。たまたま時間的な巡り合わせで、再び、自然災害がやってくるに過ぎないのです。人々は皆、その点を忘れていただけです。過去の自然災害と被害状況からの教訓をきちんと記録としてとどめた上で、

その時点で新たな災害対策をしっかりと講じていくことが大事ですと述べています。

また、寺田先生は、人間社会は文明の進歩に伴って、組織は複雑化して、社会的な分業は細くなっていく傾向があります。人間社会は利便性が高まれば高まるほど、一方で自然災害に対しての脆弱性が増していくものと述べています。

私どもは、現在講じている災害対策は年を重ねる毎に、文明が進化していく毎に、経年的劣化をしていくものだという寺田先生の教えをしっかりと心に刻みながら、社会の進歩に歩調を合わせて、災害対策も進化させていく努力を続けていくことが大事だと思います。

中でも、私どもは、水害や地震などの自然災害や火災などによる停電発生時に活用される、非常用発電設備を中心にした自家発電事業に取り組んでいます。引き続き、専門的な知識及び技能を備える技術者をきちんと育成して、自家発電設備の品質管理をきちんと行っていくこと。

また、停電発生時には非常用発電設備が適正に

稼働するよう、日常より自家発電設備を正しく維持管理していくための技術基準の運用を適正に実施していくこと。

さらに、今後必要とされる、水害対策や長期停電対策などの社会的なニーズに合わせて、私どもは、我々の仕事の幅及び深さをどんどん進化させていかなければならないこと。

それら3点を肝に銘じて、自家発電設備事業への取り組みを進めて参ります。

本日ご列席の皆様方には格別なご協力賜りますようお願いいたします。

最後に、本日ご列席の皆様のご健康とご多幸をお祈りして、私の令和二年新年の年頭あいさつとさせていただきます。

来賓のあいさつ（要旨）

経済産業省 商務情報政策局
産業保安グループ 電力安全課 課長

たのうえ ひろみち
田上 博道 氏

皆様、新年あけましておめでとうございます。

昨年、一昨年と国内では、台風や豪雨などの自然災害による大規模な被害が続いて発生しました。その際には、自家発電設備が大変大きな役割を果たされたことに対し、心より御礼を申し上げます。

特に、昨年の台風15号・19号の襲来により、両台風が通過した各地では、甚大な被害をもたらされました。台風がもたらした豪雨によって大規模な土砂崩れが発生し、また、記録的な暴風によって、電力会社の送電用鉄塔が倒壊し、住宅・建物の屋根が吹き飛ばされるなど広範囲にわたって被害に見舞われました。こうした災害に対し、行政としても、反省しなければならない点があると想い起こしている次第です。

一方、台風15号等では、自家発電設備が設置されていたにもかかわらず、倒木や土砂崩れ等による道路寸断による影響で、タンクローリーによる燃料配送が行えなかったという報告がありました。燃料の追加供給がなかったため、自家発電設備が備える機能が十分に発揮できなかった課題も浮き彫りになりました。今後の大規模な災害発生の可能性を想定して、行政としては必要な対策措置をしっかりと講じていかなければならないと考えております。

その取り組みの一環として、今年1年間、政府全体の災害対策に関する検証チームを立ち上げ、さらなる防災・減災を実現する社会の構築に向けて、今後の必要な対策を検証して参ります。経済産業省をはじめ、ここにいらっしゃる国土交通省や総務省な

ど関係省庁が一丸となって今後の対策を講じていく所存です。引き続き、皆様には、ご協力の程よろしくお願いいたします。

今年は7月24日から、東京オリンピック・パラリンピック競技大会が開催されます。開催期間中には、台風襲来による停電事故の発生なども懸念されておりますので、競技会場やプレスセンターなどの重要施設等については、電力の供給が途絶えることがないように、しっかりと事前の対策を講じて参りたいと思います。

特に、競技会場など重要施設については、非常用の自家発電設備の設置など皆様の多大なるご支援をいただきながら、更なる対策を講じて参りたいと思います。そして、皆様の心に残るオリンピック・パラリンピック競技大会となるよう一丸となって取り組んで参ります。

来年の年明けには、にこやかに皆様と再会できますよう、心より願っております。

最後に、皆様のご健勝と今年1年のご活躍をお祈り申し上げまして、私の挨拶とさせていただきます。

総務省・消防庁 予防課
設備専門官 併務 課長補佐

しおたに そうし
塩谷 壮史 氏

日頃より、貴協会においては消防行政に関してご協力とご貢献をいただいております。誠に感謝しております。平成30年6月1日付けで消防用設備等に係る自家発電設備について点検基準及び点検要領を改正し、1年半が経過しました。貴協会においては新基準の普及啓発のため、積極的に消防行政関係者への講演や研修を行っていただいております、重ねて御礼を申し上げます。

昨年も、8月の九州北部を中心とした集中豪雨、関東地方を中心とした台風15号・19号による被害等、風水害が多い年でした。台風15号・19号では、災害に伴い長時間停電が発生しましたので、現地で避難生活や事業活動を継続するにあたり、自家発電設備が非常に活躍をしたと多方面から伺っています。

貴協会におかれましては今後の大規模災害に備えた自家発電設備の設置促進についても引き続きご協力をいただきますようお願い申し上げます。

また、ロボット技術やIoT製品の普及、5Gの運用開始など、情報通信分野において様々な技術革新が進んでいます。自家発電設備を含む消防用設備等についてもこれらの技術導入を進め、安全性の向上や点検の効率化等が期待されます。そうした観点でも貴協会における取り組みを期待しております。

結びになりますが、貴協会のますますのご発展、ご多幸を祈念いたしまして、あいさつとさせていただきます。本日はおめでとうございます。

国土交通省 住宅局 建築指導課
昇降機等事故調査室 室長

むらた ひでき
村田 英樹 氏

新年明けましておめでとうございます。貴協会の皆様方には日頃から国土交通行政・建築住宅行政に格別のご協力・ご支援を賜り、厚くお礼申し上げます。

昨年は台風等による豪雨災害が多く発生しましたが、いわゆるタワーマンションにおける浸水被害が報道等で注目されました。

現在の建築基準法では、電気設備の浸水対策については特に定めはありませんが、浸水対策のガイドラインを示す必要があるとの考えから、学識経験者・関係業界・行政関係者にお集まり頂いて、経済産業省と連携して、『建築物における電気設備の浸水対策のあり方に関する検討会』を昨年秋より開催しております。

検討の対象は常設の電気設備がメインではありますが、非常用電源についても当然重要な設備と認識しており、自家発電設備も議論の対象になっております。貴協会にも委員としてご参加並びにご協力を頂いており、あらためてこの場にて御礼を申し上げ

ます。建築物における電気設備の浸水対策に関するガイドライン及び事例集は今春に取りまとめる予定です。関連業界に対し広く注意喚起することが出来る内容になることを期待しております。

本年は大規模災害のない一年であることを願っておりますが、災害時の自家発電設備の重要性及びそれに携わる皆様方の役割もますます大きくなってきているものと考えております。

最後になりますが、貴協会のご発展と皆様方のご健勝・ご多幸を祈念して、あいさつに代えさせていただきます。